

有名語句が学べる辞典の必要性

中道 知子 (大東文化大学外国語学部)

The Dictionary of Japanese Famous Saying

Tomoko NAKAMICHI

はじめに

筆者は、中道知子(2013)において、次のような趣旨で論じた。

文章理解には語学的知識だけでは及ばない部分がある。及ばないという表現を言い換えるなら、文章の文字上の理解はできても文章の持つ含意や広がりまでは拾いきれないということである。そこまで理解するためには、認知言語学分野の用語としての百科事典的知識が必要になる。現代日本語の文章中に、「一定の語句」が用いられ、文章の一部または全部の理解に不可欠な要素となっている事例が多々ある。「一定の語句」という言い方をしたのは、それらが、辞典に載っているような有名なことわざや故事成句とは限らないという事情があるためである。

また、中道(2015)においては、そのような具体例としての「金太郎」を取り上げて、詳細に述べた。「金太郎」に限らず、人物の名前が文章の中で単なる名前以上の含意を持って登場することがある。「桃太郎」しかり「一寸法師」しかり。それらのなかでも「金太郎」は実在と伝承のはざまに生まれて定着したイメージを持つ人物である。このような人物について、国語辞典からも百科事典からも満足できる必要十分な説明が得られない。実際にあらわれた用例を駆使して、「日本語の中の金太郎」の姿が日本語文化の外で育った人々にとっても生き生きと伝わるような参考書がぜひ作られるべきである

このような、有名語句を収録した参考書の必要性について、東京外国語大学日本語の会 第2回において口頭発表を行った。(「理解の背景にある「日本語」—こんな辞書は作れないものか—」平成29(2017)年3月5日)

本稿は、この口頭発表をもとに記したものである。

1 こんな用例を説明するときどうするか—「金太郎」をどう説明できるか—

用例1 (下線は筆者による。以下同じ)

金太郎部隊登場

師走を控えた二十八日、小倉北署の年末年始特別警戒(一月五日まで)の出動式が小倉城下公園である。参加警官約百七十人中、夜の繁華街を集団パトロールする特別警戒班三十五人が「金太郎部隊」だ。誕生したのは一九六〇年(昭和三十五年)。三池争議に主力が投入され、警察が手薄になった小倉市街では、暴力団員による事件が相次いだ。市民の要望で十二月十五日、小倉署(当時)に特別機動隊三十五人が「金太郎部隊」として派遣されたのが最初。当時の宮地直邦県警本部長が、「市民には気は優しくて力持ち、暴力をふるう者にはこわい存在に」と命名した。

【朝日新聞 1993年11月28日朝刊福岡】

用例2

すると、その夜の夢にクマがあらわれた。おとなしいクマで、いっしょに遊んでくれた。背中にのせてくれたり、スモウの相手になってくれたのだ。ちょうど金太郎になったような気分だった。

【星新一(2006)「葉と夢」『きまぐれロボット』角川文庫 改定第3版116、初版は1972年発行】

用例3

萩の小魚「金太郎」

和名はヒメジ、英語ではゴートフィッシュ、

萩や下関ではキンタロウと親しみを込めた名称で呼んでいます。由来は、昔話「金太郎」の衣装のように華やかな朱色をしているからでしょうか？

【萩沖日本海の旬市場 道の駅「萩シーマー」と】

<http://seamart.axis.or.jp/contents/info/kintaro11.15/index.html>

2 日本語の中の金太郎

日本語の中の金太郎、という言い方について説明しよう。

これは、日本語の文章の中で「金太郎」という人物をどういうものとして理解しているかが、その文章の理解にかかわってくるという問題である。

一例をあげれば、つぎのようなものがある。

用例4

気は優しくて力持ち、酒を飲ませりゃ底がない。角界きっての豪傑、魁皇の人物像に迫る。(中略)あだ名には金太郎の「キンタ」などがあるが(後略)

【朝日新聞 2000年07月26日朝刊】

この用例は、相撲力士の魁皇について描写した内容である。この記事は、魁皇に「キンタ」とい

うあだ名がありそれは「金太郎」から取ったものであることを述べており、金太郎になぞらえられる理由として「気は優しくて力持ち、酒を飲ませりゃ底がない」という魁皇の特徴をあげている。ここでは、新聞記事の書き手は、読み手がこの特徴と「金太郎」を結びつけることを予想しており、「金太郎」という名前が、何の注釈もなしに読み手に共有されうる名前であると判断している。「気は優しくて力持ち」という語句とともにこの人名の持つイメージが読者に共有されることによって、文章の含意が伝わる例である。

3 「日本語の中の金太郎」は、辞書でわかるか。

3-1 国語辞典の中の「金太郎」

国語辞典には「金太郎」はどのように記述されているか。以下に引用する。

『日本国語大辞典』第2版

平安時代中期、源頼光の四天王の一人で、酒吞童子退治にも同行したとされる坂田金時（公時とも）の幼名。また、それにまつわる伝説。相模の足柄山の山中で、山姥（やまうば）を母とし、熊などの野獣を友として成長したという。鉞（まさかり）を手にし、全身赤色の皮膚を持ち、怪力の持主。その物語は室町期に成立したと推定され、江戸期の浄瑠璃、歌舞伎などで脚色され、特に近松門左衛門作の「姫山姥（こもちやまんば）」で広く知られるに至った。

『広辞苑』第6版

源頼光の四天王の一人坂田金時（または公時）の幼名。また、それにまつわる怪童伝説の主人公。相模の足柄山（あしがらやま）に住んだ山姥（やまうば）の子といい、全身赤くて肥満し、怪力を有し、熊・鹿・猿などを友とし、常に鉞（まさかり）を担ぎ、腹掛けをかけ、角力（すもう）・乗馬を好んだ。歌舞伎では怪童丸という。

『三省堂国語辞典』第7版

中古の伝説的英雄（エイユウ）、坂田金時（サカタノキントキ）の、子供時代の名前。太って顔が赤かったという。

国語辞書の記述は、帯に短し襷に長しの感がある。特に、百科事典的要素が少ない『三省堂国語辞典』の記述は、用例（1）の「金太郎」の理解にはまったく寄与してくれないが、まさに百科事典的要素が文章の中で用いられているのである。相撲取りである魁皇関についての話題だけに、「金太郎」が生きてくるところである。

3-2 百科事典類の中の「金太郎」

『架空人名辞典』第2巻日本編では、「金太郎」という項目は「坂田金時」を参照するように誘導される。「坂田金時」の項では、金太郎像として「全身が赤く、鉞をかつぎ、熊に乗る」姿が形成されたと記述している。

『新版 日本架空伝承人名事典』は「金太郎」の項目がなく、「金太郎」が「坂田金時」の幼名であることを知らなければ、「金太郎」の説明に行き着かない。「坂田金時」には次のような記述がある。

坂田公時（金時）は、幼名を金太郎といい、相模の国の足柄山の山姥と赤竜の子といわれる。赤ら顔でまさかりをかつぎ、熊と相撲をとった話などで親しまれ、強健と武勇の象徴とされ、そのきりりとした姿は五月人形などでもおなじみである。また、「金太郎」の名は、金太郎飴や子供の腹がけにその名が冠せられ、「金時」の方は、その赤ら顔のところから、例えば、金時小豆など赤いものをあらわすときに用いられる。さらには酒に酔って真っ赤になることを「金時の火事見舞い」などとも言うことがある。（後略）

『日本大百科全書（ニッポニカ）』の記述は下記のとおりである。

英雄生い立ちの物語。金太郎は足柄（あしがら）山（神奈川県）の山姥（やまうば）の子で、山中で生まれ育ち、子供のときから大力であったという。江戸初期以来、桃太郎と並ぶ子供の姿の英雄として親しまれ、男の子の象徴として、早くから五月人形にもつくられた。源頼光（らいこう）の四天王の一人、坂田（酒田）金時（公時）の幼名とされる。素性については、古浄瑠璃（こじょうり）の公平（きんぴら）本『公平誕生記』（1660前後）などにみえるのが古い。『清原右大将』（1677）に「怪童（かいど）」とあり、近松門左衛門の浄瑠璃『軀山姥（こもちやまんば）』（1712）以後は快（怪）童丸が通称になる。金太郎の名は江戸中期ごろからのようである。『前太平記』（1717）には、山姥が足柄山の山頂で、赤竜と交わった夢をみて身ごもったとある。伝説が浄瑠璃や浮世絵などの世俗芸術にとられ、その作品がまた民衆のイメージを育てている。箱根の金時山（猪鼻（いののはな）岳）の中腹には金太郎と山姥が住んだ石室があったという巨石がある。本来、各地にあった山姥が山中で子供を生んだという伝説の一つで、長野県には、木曾（きそ）の金時山（南岐蘇（なきそ）岳）に金時母子が住んだ岩屋があり、旧上水内（かみみのち）郡芋井（いもい）村（現長野市）の虫倉明神は、金時の母を祀（まつ）ると伝える。山中で生まれた英雄の物語は『曾我（そが）物語』真名（まな）本など室町時代の物語文学にもみえ、狩猟民が伝えた山の神が山中で出産する物語は、金太郎をはじめ、この種の山中誕生譚（たん）の原形をなすものである。[小島環]

『日本人名大辞典』も「金太郎」は「坂田金時」を参照することになる。記述は以下の通りである。

平安時代中期の武人。

源頼光（よしみつ）（948-1021）の郎等で「頼光（らいこう）四天王」のひとりとされる。丹波大江山（京都府）の酒吞（しゅてん）童子退治に参加。幼年時代の足柄山の金太郎の話は、江戸時代に山姥（やまうば）伝説とむすびついて生まれ、のち「日本昔噺（むかしばなし）」や童謡などで普及した。通称は主馬佑。名は金時ともかく。

これら百科事典類の記述に見られる特徴は次のようである。

- ① 説明が詳しく、それゆえに、「日本語の中の金太郎」を理解するために肝心な要素がなにかが埋もれてしまう恐れがある
- ② 「金太郎」では項目にたどり着かないことがある

3-3 実在人物と架空人物のはざまとしての「金太郎」

金太郎は、坂田金時（さかたのきんとき。「公時」とも書く）の幼名で、坂田金時は源頼光の郎党で四天王のひとりであり、すなわち金太郎そのものは実在の人物である。しかし、出身地といわれる足柄郡の民間信仰に結びつけた形で、出生や生育や晩年のさまざまな姿が作り出され語り伝えられていくなかで、童子である「金太郎」は、実在人物であるおとなの坂田金時とはまた別の存在として、人々の心に定着する。そういう意味で、金太郎というのは、たとえば桃太郎が全くの架空の人物であるのに対して、実在と架空のはざまに生まれて存在している人物である。

だからこそ、「金太郎」は、百科事典の類においては直接に「金太郎」では見いだせないであろう。

4 「日本語の中の金太郎」はどのように説明されるべきか—「金太郎」はどんな人物か

4-1 百科事典的要素

朝日新聞社データベース『聞蔵ビジュアルⅡ』から採取した2012年1月1日～2014年12月9日の用例27例を通観するとわかることは、「金太郎」には下記のようないくつかの要素が必ず付帯していることである。

- ① 鉞（まさかり）をかっいでいる
- ② 力が強い
- ③ 熊にまたがる
- ④ 熊と相撲をとる
- ⑤ 肌の色が赤い
- ⑥ 腹がけをしている

これらは、多分に童謡¹によって植えつけられたイメージであろうが、この要素が様々に組み合わせられて使われており、それを知ってこそ、文章の理解が成り立つのであるから、「金太郎」についてのそういった共通イメージを持っていない非母語話者の理解を促すためにはこういった要素が明示されることが必須である。絵などの視覚手段が有効であろう。

¹ ※童謡「金太郎」の歌詞：作詞・石原和三郎
まさかりかっいで きんたろう くまにまたがり おうまのけいこ
ハイ シィ ドウ ドウ ハイ ドウ ドウ ハイ シィ ドウ ドウ ハイ ドウ ドウ
あしがらやまの やまおくて けだものあつめて すもうのけいこ
ハッケヨイヨイ ノコッタ ハッケヨイヨイ ノコッタ

4-2 「気は優しくて力持ち」との結びつき

「気は優しくて力持ち」は、どこから来たことばなのか、「金太郎」か「桃太郎」か。

用例5

園児の相撲大会、一足早く千秋楽 島田の保育園 /静岡県

島田市井口の私立初倉保育園(久野君子園長)で恒例の相撲大会が23日に「千秋楽」を迎えた。

5日のこどもの日にちなんで、昔話の「金太郎」のように「気は優しくて力持ち」になってほしいと9日から毎週水曜の午前中に相撲をやってきた。

【朝日新聞2007年05月24日朝刊】

用例6

永廣清美学校長は「生徒たちには、気は優しくて力持ちな『桃太郎警察官』たれ、と話している。

【朝日新聞2005年10月31日朝刊】

用例7

明治座「桃太郎侍」2役の高橋英樹さっそう(演劇)

高橋はテレビや舞台で何度も「桃太郎侍」をやってきたが、山手樹一郎の原作を忠実に劇化したのは今回が初めてという。浅草のお化け長屋に住む、気は優しくて力持ちの浪人桃さん、実は丸亀10万石若木家の若殿、新之助と双子の兄弟。

【朝日新聞1990年06月12日夕刊】

5 「金太郎」以外

5-1 「寿限無」

用例8

政府は5日(中略)テロ対策特別措置法案を閣議決定し、国会に上程した。(中略)正式な法案名は113文字1。異例の長さの寿限無法で、(以下略)

【朝日新聞2001年10月07日朝刊】

用例9

合併で寿限無のような新市名

【朝日新聞2004年01月07日朝刊】

5-2 「ここ掘れワンワン」

用例10

26日、白浜町の白良浜海水浴場で「熊野水軍埋蔵金探し」(同実行委員会主催)があり、約3千人の海水浴客たちが参加した。

午前10時、太鼓の合図とともに参加者らは一斉にダッシュ。砂を掘る道具は使わないルールなので、賞品の名前を書いたプラスチック容器を見つけようと砂をかき、「ここ掘れワンワン」状態だ。賞品は「10万円金貨」「ゲーム機」「自転車」など。

【朝日新聞 2009年08月27日朝刊和歌山】

用例 11

ななが小学生の時に飼っていたのは真っ黒な雑種の子犬。花咲かじいさんの「ここ掘れワンワン」を夢見て、よく散歩に出掛けました。ある日、遠くでキラッと輝くものが……。何だろうとワクワクしながら犬とともに駆けていくと、小銭ではなく、缶ジュースのプルタブでした。やっぱり「腹黒い犬」じゃだめなのかしら。

【朝日新聞 2007年11月15日夕刊 be】

用例 12

何年ぶりかの潮干狩りである。最初に下りた浜では小ぶりの貝がポツポツで、その先の浜に移動した。そこでも見つからない。私はボーッと突っ立って、人様が一生懸命に掘っている姿に見入ってしまう。別の人が掘ったあとに、貝がきれいに姿を見せていた。ここ掘れワンワンよろしく掘り出した。私が両手で掘っては、孫が貝を拾う。

【朝日新聞 2006年04月26日朝刊】

用例 13

豚が地雷探知（かたえくぼ）

ここ掘れ「ブーブー」と鳴くのかな——花咲翁さん（岐阜・てっちゃん）

【朝日新聞 2003年11月15日朝刊】

5-3 「早く芽を出せ」

用例14

（あらすじ：エス博士は、ブドウとメロンとを掛け合わせて、メロンの実がブドウのようにたくさんなる新種の植物を作ろうとしていた。名前をブロンと名づけた。）

エス博士は温室にとじこもり、研究に熱中し、なんとかタネを作りあげた。

「これでよし。早く芽を出せ、ブロン、ブロンだ」

【星 新一（2006）『きまぐれロボット』、94】

元の表現「早く芽を出せ柿の種」の最後の部分を「ブロン」に置き換えているわけだが、最後の「だ」の部分は、この表現が、「早く芽を出せ」を下敷きにしたものであることと結びついている。この表現がお伽噺の有名なせりふではなくてオリジナルな表現である場合は、このように、呼びかけ（ブロンに対する）において「だ」はつかないのが普通である。

5-4 「兵どもが夢の後」（松尾芭蕉の俳句「夏草や兵（つわもの）どもが夢の跡」）

用例 15

調布市仙川町の元眼科医が診療所を改造して25年前にオープンした芝居小屋「スペース仙川」が今月中旬、老朽化のため幕を下ろすことになった。(中略) 芝居小屋は老人たちの“遊び場”とともに、役者を目指す若者たちの表現の場でもあっただけに、閉鎖を惜しむ声が出ている。桐朋学園の正門近く。一本路地を入ると、水色のペンキが塗られた倉庫風の小屋が立っている。中は木製のベンチだけでガランとし、二階部分に照明、音響器具が雑然と置かれていた。「つわものどもが夢の跡ですよ」。芝居小屋「スペース仙川」の持ち主である吉田央(ひろし)さん(七二)がつぶやいた。

【朝日新聞 2001年02月03日朝刊】

5-5 「雨ニモ負ケズ風ニモ負ケズ」(宮沢賢治の詩)

5-6 「赤信号、みんなで渡れば怖くない」

用例 16

「世の中には『赤信号、みんなで渡れば怖くない』というようなことが、正当化されている空気があるような気がするんです。

【毎日新聞 2011年10月20日夕刊】

5-7 「失われた10年」

用例 17

この調子では日本の「失われた10年」を米国も後追いしかねない。

【毎日新聞 2011年8月24日】

5-8 「赤ひげ」²

用例 18

木村真三(44)は原発被災地の「赤ひげ」である。

【毎日新聞 2011年10月17日朝刊】

用例 19

赤ひげ大賞とは

地域に貢献する医師を表彰

日本医師会と産経新聞社が共催、ジャパンワクチン株式会社が特別協賛し、地域に密着して人々の健康を支えている医師の功績を顕賞。

² 日本人名大辞典「赤ひげ」

山本周五郎の小説「赤ひげ診療譚」の主人公。

本名は新出去定(にいで-きょじょう)。江戸の施療院小石川養生所の所長で、病苦の大半は社会悪に原因があるとしながら、献身的に施療をつづけ、若い医師保本登を感化していく。昭和33年「オール読物」に連載。黒沢明監督、三船敏郎主演で「赤ひげ」の題名で映画化された。

広く国民に伝えるとともに、次代の日本を支える地域医療の大切さをアピールする事業として平成24年に創設しました。

【日本医師会 HP <https://www.med.or.jp/people/akahige/>】

用例 20

第2回「日本医師会 赤ひげ大賞」表彰式

安倍総理を来賓に迎え、5名の功労を顕彰

第二回「日本医師会 赤ひげ大賞」（日医・産経新聞社主催）の表彰式並びにレセプションが三月二十八日、都内で開催された。

本賞は、現代の“赤ひげ”とも言うべき、地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に住民の生活を支え、その地域のまちづくりに寄り添った活動を続けている医師にスポットを当て、顕彰することを目的として、平成二十四年度に創設したものである。

【日本医師会日医ニュース <https://www.med.or.jp/nichinews/n260505k.html>】

5-9 「ワトスン」

用例 21

「ビブリア古書店の事件手帖」はベテランのライトノベル作家、三上延による、この文庫発のベストセラー。鎌倉にある老舗古書店の若き店主栞子が本を巡る謎を解く日常ミステリーだ。（中略）ワトスン役の、本が読めない古書店員大輔と、栞子の不器用な恋愛も魅力。

【朝日新聞 2011年11月26日夕刊】

5-10 「北風、太陽」。

用例 22

「脱原発」を望むなら、叩きつぶすべき悪者や憤りの声という「北風」以上に、「言うは易く行うは難し」を一番よく知っている立地地域を説得しうる論理という「太陽」が求められます。

【朝日新聞 2011年9月13日朝刊】

5-11 「箱船、世界の終り」

用例 23

あの水位がもっと高くなったら、バンコクも水びたしになるわけだ。いつまでも引かない静かな洪水。みんなが乗れる箱船が欲しいような、世界の終りのような洪水

【朝日新聞 2011年11月1日夕刊】

6 片言隻句からでも検索できる辞書(語句集)がほしい

紙の辞書では無理で Web 辞書が最適だと思われる。理由は下記のとおりである。

- (1) 片言隻句からでも検索できる。例えば「どんぶらこっこ」で情報が得られる。この語句自体は Web で検索可能だが情報は玉石混淆で百科事典的であって、「ことば」視点ではない。
- (2) 用例に即して「ことば」の立場からの解説が視覚材料付きで収録されていて、自由にダウンロードできる。日本語教育の「みんなの教材サイト」のイメージ (<https://minnanokyozaai.jp/kyozai/home/ja/render.do?sessionid=A3C86F5977C9A634399671D7664AE36B>)
- (3) 新たな用例を web へのアップロードによって自由に追加できる。

このような辞書(語句集)は、現行のことわざ・故事成句辞典などで扱っていない分野の語句(題名、人名、地名、文中の一節など)を扱うことによって、現行諸辞典の空隙をうめる情報を提供することになり、辞書の新たな活路となる。

また、このような辞書(語句集)は、外国人に対する日本語教育(特に上級教育)、日本事情教育、翻訳などの諸分野で有用であろう。さらに、外国人の上級日本語教育のみならず、日本語母語話者への教育(伝統的言語文化の若い世代への継承)に適用できることでもある。

参考

平野敬一(1972)では、英語の非母語話者が英語表現を理解するためには、イギリスの伝承童謡であるマザー・グースの唄の表現を知っていることが重要であることを述べている。その中で、日本語の場合についても述べている部分があるので、以下に引用する。

こういう事情は、日本語と英語との立場を逆にして考えてみると、もっとはっきりするかもしれない。たとえば、日本語で「どんぶらこっこ、どんぶらこ」という擬声音(?)を耳にすると、私たちはたいがい「桃太郎」の話で桃の実が川上から流れてくる場面を連想するはずである。それが日本人のごく自然のむりのない反応であるように思われる。ところが日本語を学習している外国人の研究家が、「桃太郎」の話をしらないまま、かりに詳しい国語辞典また引用句辞典でこの表現の出所やいわくを調べようとしても、まず徒労に終わるのではないかと思われる(子供にきけば、わけなく解明するのに)。またたとえば、「あの山越えて(里へ……)」という表現から子守唄(「坊やはよい子だねんねしな」)を連想するのは、私たちにとってはさほど難事ではないであろう。ところが特別に日本の童謡の研究でもしていないかぎり、外国人の日本語学習者にとって、こういう表現の字句上の意味はわかったとしても、その子守唄的なニュアンスは、絶対とっていいほどつかまえないのではないかと思われる。

平野は、さらに続けて、イギリス伝承童謡の中の表現が日常の英語表現にも時々出てくる場合に

ついて述べている。

偶然の符合というべきだろうが、イギリスの伝承童謡のなかにも「山やま越えて遠方（おちかた）に」（‘over the hills and far away’）という言い回しがある。（中略）これは現代の日常英語にもときどき顔を出す表現である。英語国で育った人なら、すぐこれが伝承童謡に由来する言いかたであることがわかるし、そのメロディーが自然に口に浮かんでくるのである。外国人には、まずそういう背景やニュアンスがわからない。また、この表現にそういういわくのあることにすら気がつかないのである。意味をとるのに別に問題はないし、熟語（イディオム）として辞書で特別に扱われることも絶対とっていいほどないからである。

しかし、こういう表現を文中にさりげなく使う作者とそれを読む読者とのあいだに、この表現の伝承童謡由来のニュアンスをどちらも暗黙に承知しているという点で、一種の默契のようなものが成立しているのである。私たちは、同じものを読んでいるつもりでいても、多くの場合、作者と読者とをこういうふうに底においてつないでいるものから実は疎外されているのである。（後略）

参考文献

- 中道知子（2013）「現代日本語読解のための背景知識」『大東文化大学紀要』第51号〈人文科学〉183-193
- 中道知子（2015）「日本語の中の「金太郎」」『語学教育研究所創設30周年記念フォーラム』大東文化大学語学教育研究所 145-155
- 中道知子（2017年3月5日）口頭発表ハンドアウト「理解の背景にある「日本語」—こんな辞書は作れないものか—」東京外国語大学日本語の会 第2回
- 平野敬一（1972）『マザー・グースの唄 イギリスの伝承童謡』中公新書 275

辞書・事典

- 教育社歴史言語研究室（編）（2011）『架空人名辞典』第2巻日本編 日本図書センター 教育社：
（教育社（1986-1989）『架空人名辞典 欧文編、日本編』の復刻）
- 大隈和雄他（編）（2012）『新版 日本架空伝承人名事典』平凡社
- 『日本国語大辞典』第2版 小学館
- 『広辞苑』第6版 岩波書店
- 『三省堂国語辞典』第7版 三省堂
- 『日本大百科全書（ニッポニカ）』JapanKnowledge, <http://japanknowledge.com>.
- 『日本人名大辞典』JapanKnowledge, <http://japanknowledge.com>.

¹ 本稿は、「東京外国語大学日本語の会」（東京外国語大学大学院日本語学専攻の修了者の研究会）の第1回研究会（2017年3月5日）において発表した際のハンドアウトをもとにしている。